

長野県松本市

HIRATAHONGŌ

平田本郷遺跡

— 第6次発掘調査報告書 —



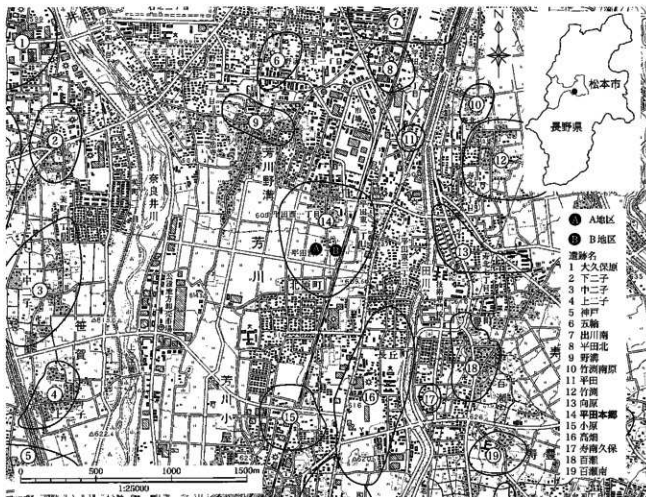
2008.3

松本市教育委員会

例言

- 1 本書は、長野県松本市平田西2丁目222番1他において、平成18年10月4日から平成18年12月5日の間に行了れた平田本郷遺跡(ひらたほんごうーいせき)第6次調査の報告書である。
- 2 本調査は、松本市による平田駅西口線道路築造工事に先立ち、松本市教育委員会が行った緊急発掘調査である。
- 3 本書の執筆はⅢ3(1)直井雅尚、Ⅲ3(2)三村竜一、その他を内田陽一郎が担当した。
- 4 本書作成にあたっての作業分担は以下のとおりである。
 遺物洗浄：百瀬二三子 土器接合：竹平悦子、前沢里江 金属製品保存処理・復元：洞澤文江
 土器実測：白鳥文彦、前沢里江 トレース：久根下三枝子 金属製品実測・トレース：荒井留美子
 石器実測・トレース：内田陽一郎 遺構図整理：内田陽一郎
 写真撮影(遺構)：三村竜一、岡崎武祥、内田陽一郎、宮嶋洋一 写真撮影(遺物)：宮嶋洋一
- 5 石器の材質鑑定及び地質に関する事柄については森 義直氏に御教示いただいた。
- 6 本書の中で使用した遺構名の略号は次のとおりである。
 第○号住居址→○住 第○号土坑→○土 第○号ピット→P○
- 7 本調査で得られた出土遺物及び調査の記録類は松本市教育委員会が保管し、松本市考古博物館に収蔵されている。

松本市立考古博物館：郵便番号390-0823 長野県松本市大字中山3738-1
 電話番号0263-86-4710 FAX番号0263-86-9189



第1図 調査地区の位置及び周辺遺跡

1. 調査の経緯

1 調査の経過

平田本郷遺跡は、松本市芳川地区に所在する周知の埋蔵文化財包蔵地である。過去5回の発掘調査結果から、古墳時代前期・中期、奈良～平安時代前半・後半、中世にかけての複合遺跡とされている。こうした中、松本市による平田駅西口線道路築造工事が計画された。道路築造予定地は埋蔵文化財包蔵地のほぼ中心に位置し、隣接地の過去の発掘調査結果から予定地にも遺構が存在することが予想された。そこで松本市教育委員会と事業担当課で協議を行い、事前に発掘調査を実施し記録保存を図ることとなった。文化財保護法第94条に基づく「通知書」は、平成18年9月25日付長野県教育委員会宛てに提出された。通知に対しては長野県教育委員会より発掘調査の指示が平成18年10月10日付で通知されている。

松本市教育委員会では次節に示したような発掘調査団を組織して平成18年10月4日から同年12月5日まで現地で発掘調査を実施し、終了後は室内における整理作業及び本報告書の作成を行い、平成19年度本報告書を刊行するにいたった。

2 調査体制

調査団長 伊藤 光 (松本市教育長)

調査担当者 三村竜一 (文化財課主任)、岡崎武祥 (同嘱託)、内田陽一郎 (同嘱託)

調査員 今村 克、三村 肇、宮嶋洋一、森 義直

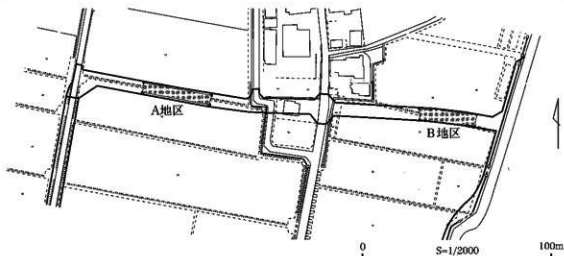
協力者 翁像 薫、勝川順一、河野清司、下条ちか子、中村恵子、中山自子、福島 勝、藤田昌幸、古屋美江、三代沢三恵、三代沢宗俊、百瀬 寛、百瀬二三子

事務局 松本市教育委員会文化財課

宮島吉秀 (課長)、横山泰基 (係長)、直井雅尚 (主査)、関沢 聡 (主査)、櫻井 了 (主事)、花村かほり (嘱託、～平成19年3月)、柳澤希歩 (嘱託、平成19年4月～)

平田本郷遺跡調査履歴

調査	期 間	報 告 書
1次	平成5年11月9日～平成6年3月24日	1994 『松本市平田本郷遺跡 -緊急発掘調査報告書-』
2次	平成6年5月10日～平成6年5月24日	1995 『松本市平田本郷遺跡Ⅱ -緊急発掘調査報告書-』
3次	平成9年12月11日～平成10年3月24日	1999 『長野県松本市 平田本郷遺跡Ⅲ -緊急発掘調査報告書-』
4・5次	平成13年5月9日～平成14年1月12日	2003 『長野県松本市 平田本郷遺跡Ⅳ・Ⅴ -緊急発掘調査報告書-』



第2図 調査範囲

II 遺跡の環境

1 地形

調査地区は北上する奈良井川と田川に挟まれた複合扇状地の扇央部（やや田川寄り）に位置する。（第1図）地形面は平坦で、標高値はA地区609m、B地区608m前後で東北東にゆるく傾く。発掘調査以前は両地区とも水田として利用されていた。

2 地質

調査地区周辺は、奈良井川と田川の扇状地性堆積物から形成されており、西方を北流する奈良井川の氾濫原に属するとされている。調査地区内の基本的な土層堆積は、現地表から下30～40cmは現在の水田耕作土とその造成土（第3図1～5層）、その下に鉄分沈着のみられる雨水により洗い出された粘質土（第3図6～15層 下部は砂質が強くなる。色調・粒度で複数層に分層可能）、さらにその下、現地表から80～100cm下に砂礫層（第3図16層）が堆積する。砂礫層中の礫は砂岩・硬砂岩・粘板岩・チャート等で構成される。土層堆積は、A・B両地区とも基本的には同じ様相を呈するが、砂礫層の供給源はA地区が奈良井川系、B地区は田川系である。

引用参考文献

松本市教育委員会 1994『松本市平田本郷遺跡 -緊急発掘調査報告書-』pp7～pp9

松本市教育委員会 1999『長野県松本市平田本郷遺跡Ⅲ -緊急発掘調査報告書-』pp3～pp5

III 調査結果

I 調査の概要

調査対象地は幅の狭い道路築造用地のため調査期間等の制約からA・B地区の2地区（第2図）に分けて、A地区、B地区の順で発掘調査を実施した。

A地区は調査範囲設定後、東側に重機で試掘坑を2ヶ所設けて遺構の有無を確認した。その結果、遺構と推定されるものが確認され、現地表下40cm付近を検出面とし重機による表土剥ぎを行ったところ、調査区中央を東西に走る溝状遺構が検出された。その後、調査区内に15本のトレンチを設定し、溝状遺構の断面観察及び下層遺構の有無の確認を行った。その結果、溝状遺構としたものは自然の溝状地形に古代・中世の遺物を含む堆積物が溜まったものと判断した。各トレンチにおいて現地表下約80～100cmの砂礫層まで掘り下げを行ったが、下層に明確な遺構は確認できなかった。調査区壁面及び各トレンチ壁の土層を記録し、本地区での発掘作業を終了した。遺物は土器片118点、金属製品2点が出土した。本報告書では紙面の都合上、本地区の遺構・遺物についての詳細は割愛した。

B地区は調査区南壁沿いに重機で3ヶ所の試掘坑を設け遺構の有無を確認した後、さらに東壁と南壁沿いにL字トレンチを設けて遺構の確認と検出面の設定を試みた。明確な遺構は確認できなかったが、土器片を多く包含する土層（第3図10層）が確認された。この層を少し掘り込むかたちで重機による表土剥ぎを実施し、11層上面での遺構検出を試みた。その結果、土坑1基、ビット8基、焼土範囲2ヶ所を検出した。遺構掘削を終え北壁沿いにトレンチを設け東側から人力で11層の除去及び下層遺構の検出を試みた。その際、北壁沿いのトレンチにカマドが検出され、11層をやや掘り込むかたちで第1号住居址を検出した。11層掘削中及び13層、16層上面で竅穴住居址1軒、土坑9基、ビット21基を検出した。遺構覆土と地山土の差が不明瞭のものが多く、11層掘削中及び13層、16層上面で検出された遺構の中には11層上面で検出できなかった遺構もあるものと推測される。よって本報告書では敢えて検出面での遺構の新旧は触れないこととした。本地区では概ね5cm以上の遺物・拳大以上の礫は全て三次元座標記録を取る方針で作業を行った。

2 遺構

(1) 第1号住居址 (第4図)

11層中で検出。一部調査区域外にでるが、平面形は隅丸長方形プランである。掘方は16層(第3図)の砂礫層を掘り込む。床は不明瞭であったが、掘方直上を床とした。住居内遺構はカマド以外検出できなかった。カマドは東壁北東隅に位置し、比較的残りの良い石組みカマドで石材は硬砂岩が主体である。比較的大形の礫を両袖に配置し、その礫の上にやや小形の礫を積み上げてある。天井石は覆土埋没後に折れた状態で検出された(第9図)。カマド内には、両袖から崩れたと推測される礫が入り込み、その礫を除去すると176点の土器片が出土した(第4図)。火床は不明瞭。住居址覆土からは、土器、金属製品、砥石が出土した。土器はカマド周辺及び西側付近に集中する(第4図)。金属製品は鎌、鏃、釘、鋸等と鉄滓があり、釘、鏃、鎌、釘が錆着した状態で出土した。出土土器の時期は中央自動車道長野線松本地区編年の14期～15期と推定される。

(2) 土坑・ピット(第5図)

最大径50cm以上のものを土坑、50cm未満のものをピットと仮称した。8土、P4、6～12は11層上面で検出されたが、調査区壁にかかるものがないため、掘り込み面は不明である。8土は当初11層上面で検出され完掘したが、1住覆土の掘り下げ時に8土特有の覆土層が確認できたため、誤認と判断し、あらためて範囲を確定した。11土は、11層掘削中に検出され、底面に焼土面が確認された。16土は11土完掘後の11層掘削中に検出された。覆土中に礫、礫片を多く含むもので、11土と本来同一土坑であった可能性もある。11土、16土出土の礫片は1住覆土の礫片と接合関係を持つ(第9図)。P16～37はやや定形的なもの。11層下部付近でやや色調の変化がとらえられたが、不明瞭であったため11層を除去した後検出した。調査区東側で検出されたもの(P16、20、23、28)のように、位置関係に意味づけできそうなものもある。

(3) 焼土範囲(第5図)

土坑、ピットのように掘り込みはなく、焼土が分布するもので、11層上面で2ヶ所確認した。焼土範囲2は10土の覆土の一部をとらえた可能性がある。

3 遺物

(1) 土器・陶磁器(第6・7図、第1表)

器種・器形 104点を図化提示した。古代の土器・陶磁器には土師器(黒色土器を含む)と須恵器、灰軸陶器、白磁がある。土師器の器種は食器類に杯・椀・皿・耳皿・盤・鉢、煮炊具に羽釜があるが、食器類が大半を占め、煮炊具はわずかしかない。杯は口径8～11cm、器高1～2.5cmの範囲に収まる小形の杯AII、口径12～15cm、器高4cm前後の範囲のやや大形の杯AIIIがある。杯AIIには、かなり扁平で皿として扱った方がよいものも含めている。椀は高台を有すもので、内面黒色、内外面黒色の黒色土器A・Bが含まれている。皿は高台を持たない、杯形の大形・扁平のものを皿AIと扱った。端部が強く外反するものが多いのが特徴である。口径14～17cm、器高2.8～4.2cmの寸法を持つ。小形の皿AIIは前述のとおり杯と混同している。盤は皿に高台が付された形態で、大形の盤Aと小形の盤Bがあるが、盤Bは杯部が扁平な椀と区別がつかない。須恵器は図示できたものはないが、杯Bの底部破片が数点あり、9世紀前半を遡るものと考えられる。灰軸陶器は第1号住居址から1点、包含層から3点が出土している。全形がわかる第1号住居址のものは深椀である。他の個体には底面に回転ケズリ痕跡が窺えるものがあり、若干、時期的に遡る可能性がある。白磁は検出面から1点が出土している。単純口縁の椀になると推定する。中世に属するものはいずれも小片で図示できないが、東海系無軸陶器の捏ね鉢、須恵質の甕胴部、青磁碗などがある。

土器群 第1号住居址出土品は覆上下層のカマド周辺及び西側付近に集中しており、出土状況からほとんどが住居廃絶前後に廃棄されたものと考えられる。図化92点を数え、良好な資料と言える。提示した食器類の器種・器形の数量と構成比は次のとおりである。杯AII：41%、杯AIII：10%、碗：22%、皿AI：16%、盤A：2%、盤B：5%、その他：4%。これらの土器群の时期的な特徴は、杯AIIの一部が皿形化していることと、底部が突出する皿AIIが存在しないことである。これは皿AII出現以前と捉えるか、皿AIIが形態変化して原形を失い、杯AIIと区別がつかなくなった後と捉えるべきかの問題に帰すると考えるが、皿AIの端部つまみ上げ形態が失われている点などからみて、後者の見解を採りたい。したがって、中央自動車道長野線松本地区編年の14期から15期に相当すると考える。ただし、該期は資料の蓄積と分析が充分とは言えず、今後検討の余地を残している。

参考文献

松本市教育委員会 1999『長野県松本市平田本郷遺跡Ⅲ』

長野県教育委員会 1990『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書4—松本市内その1—総論編』

(2) 金属製品(第8図、第2表)

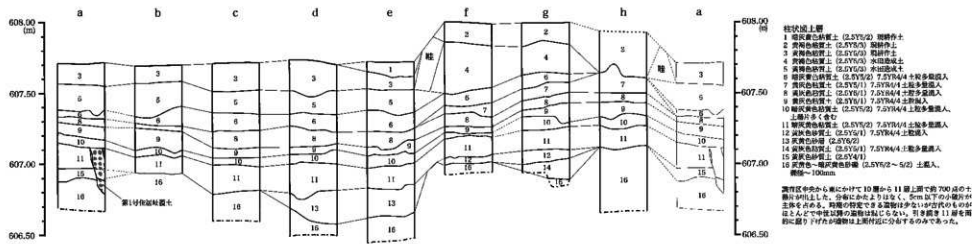
今回の調査では、24点の金属製品が出土している。種類は鉄、銅、銀、鉛、鋳鉄、鉄滓がある。金属種別は鉄、銅がある。実測は全形がうかがわれるもの、特徴的なものを中心に行い、1住出土の13点を提示した。その内、南西部覆土下層から出土した1～9(実測図No.以下同)の9点はまとめられていた可能性が高い。2・3、5～9は錆着し、5～9は釘(9)の長軸に合わせてまとめられている。出土状況は2・3の直上に1・4が重なり、5～9は2・3の10cm西に近接していることから、1～9は容器や袋等に入っていたと考えられ、鉄製品の再利用を目的として集められたものかもしれない。

第1号住居址出土品(第8図、第2表) 鉄は3点ある。2は刃先と基部が欠損した雁又鎌の破片である。3は身部破片で、両丸造あるいは平造と思われる。11は長頸鉄の破片で、頸部～基部が残存する。鎌は5点ある。4は先端部が欠ける。刃部で人為的に折りたたまれている。5～7は同一個体の鎌で、基部から刃部に向け徐々に増幅している。8は刃部破片で、比較的薄い。釘は2点ある。1は頭部が残存する角釘の破片である。頭部を直角に折り曲げ、平坦面が作り出される。9は角釘の破片で、基部上端を叩き延ばし、折り曲げている。13の鎖は長槽円環が5個連結し、塊状に錆着していた。錆膨れがあるが、断面形は長方形と思われる。槽円環の端部は、全て接していない。10は器種不明品の小破片である。断面形は長方形の部分と方形の部分があり、境界部分で屈折する。形状から鎖の一部の可能性がある。12は器種不明品の破片で、全体ではT字形を呈している。折り曲げられてヘアピン状を呈する部品が、片端部に長方形の穴があく棒状部品に通され、錆着している。ヘアピン状の部品は折り返し部分に長径6.1mmを測る槽円形の穴があり、反対側の先端部に向け徐々に減幅・減厚する。長方形の穴があく棒状部品も、反対側の先端部に向け徐々に減幅・減厚する。断面形は、どの部分も概ね長方形を呈する。鉄滓はカマド内を中心に8点が出土し、合計112.8gを量る。鉄器・鉄滓の出土状況から、1住周辺には鍛冶遺構の存在が推定される。

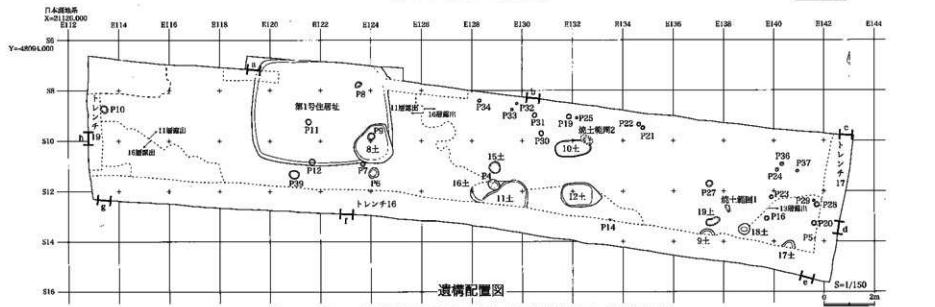
(3) 石器(第9図)

研磨面の確認できたものを砥石とし3点を図化した。全て1住覆土中から出土した。

1住出土の礫について 16層中の礫より大きいものが多く、円礫が主体を占める。カマド周辺に比較的多く分布する。完形の礫と剥離面の観察できる礫(以下礫片とする)があり、被熱し変色したもの、ススの付着したもの等が出土した。礫片に関しては現場での記録を終えた後、取り上げ、合計66点の礫片を回収した。剥離面の多くは被熱剥離によるもので一部打撃による剥離面を持つものもある。接合関係は第9図で示した。

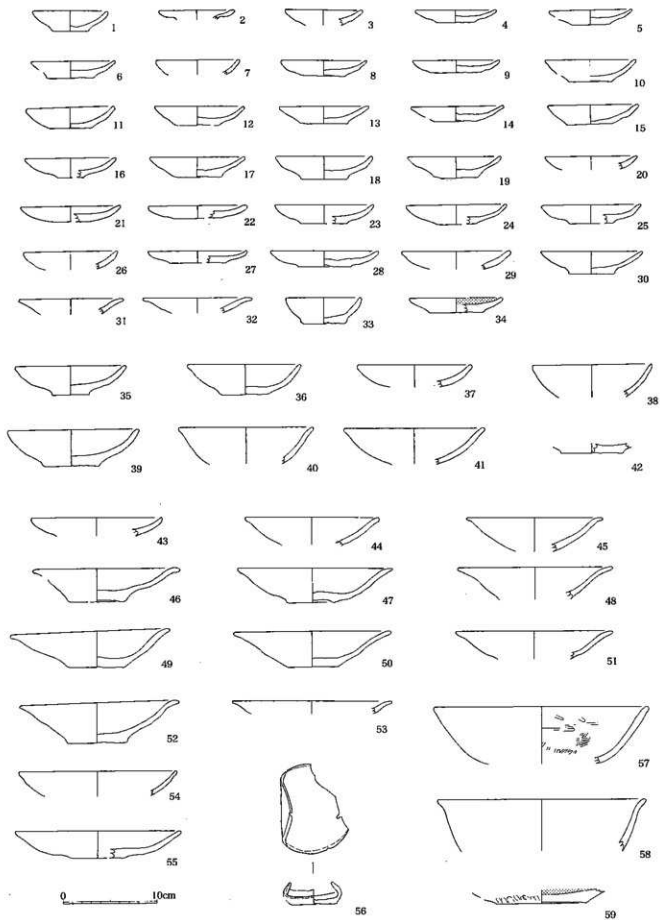


土層柱状図

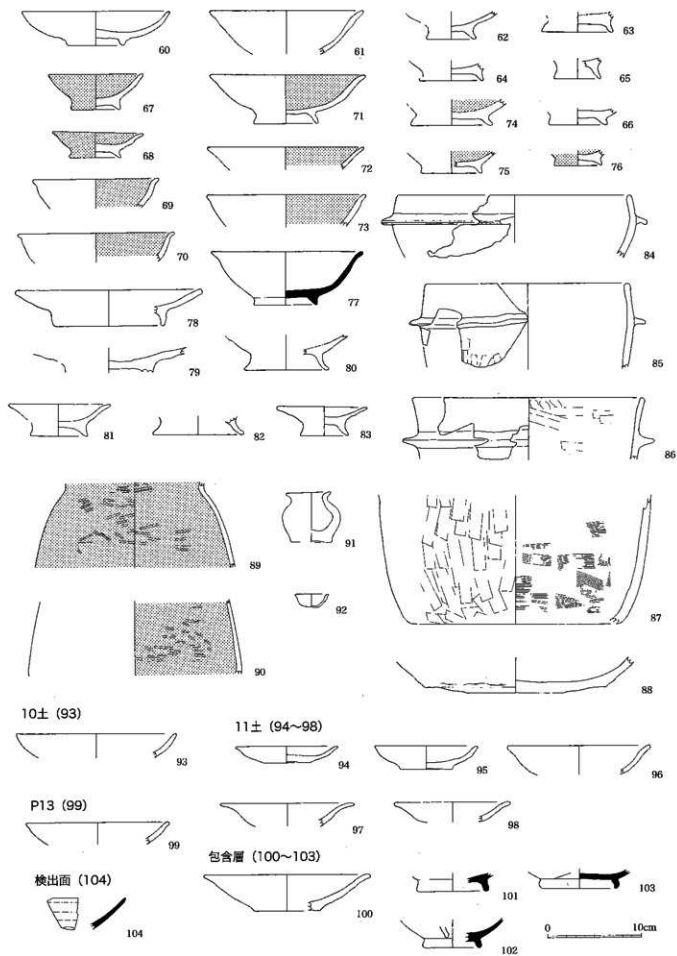


第3図 B地区土層柱状図・調査区北壁出土遺物投影図・遺構配置図

1住 (1~92)



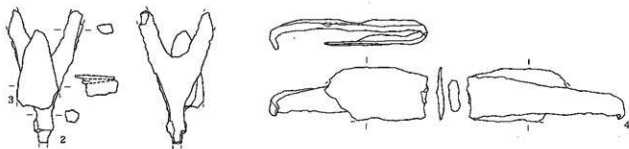
第6圖 土器・陶磁器 (1)



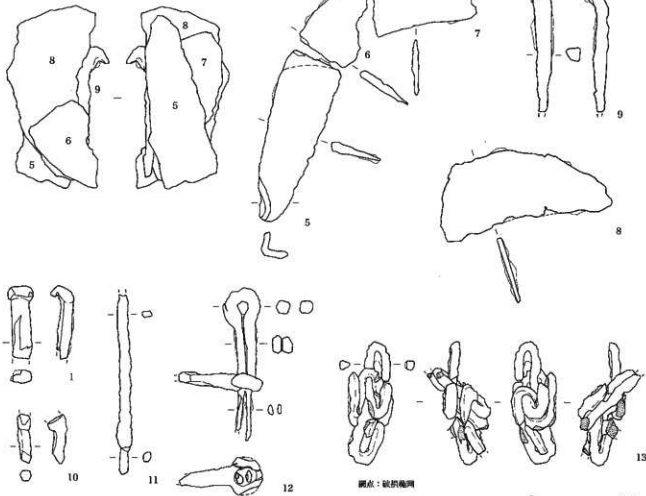
第7図 土器・陶磁器 (2)

第1表 出土土器・陶磁器観察表

NO.	出土 順	種類	形状 寸法(mm)	特徴	出所	底面・側面・胎体	調査 番号	時期	備考
1	1	土器	片断	7.0 2.6 2.2	山内 盛茂	ワコナテ 磨製陶器片断	1605 16187		
2	1	土器	片断	6.0	山内	ワコナテ	1624 16247		カマド内出土
3	1	土器	片断	8.2	山内	ワコナテ	1619 16144		
4	1	土器	片断	6.5 4.1 1.3	山内 盛茂	ワコナテ 磨製陶器片断	1626 16046-158-202		
5	1	土器	片断	8.0 4.2 1.8	山内 盛茂	ワコナテ 磨製陶器片断	1611 16064-066		
6	1	土器	片断	5.2 2.2 1.8	山内 盛茂	ワコナテ 磨製陶器片断	1628 16105		
7	1	土器	片断	8.2	山内	ワコナテ	1610 16141		
8	1	土器	片断	8.1 4.2 1.8	山内 盛茂	ワコナテ 磨製陶器片断	1624 16106		
9	1	土器	片断	6.4 3.3 1.3	山内 盛茂	ワコナテ 磨製陶器片断	1618 16159		カマド内出土
10	1	土器	片断	9.2 4.8 2.1	山内 盛茂	ワコナテ 磨製陶器片断	1622 16016-187		
11	1	土器	片断	8.0 4.7 2.3	山内 盛茂	ワコナテ 磨製陶器片断	1621 16034-182		
12	1	土器	片断	3.4 4.8 2.1	山内 盛茂	ワコナテ 磨製陶器片断	1613 16037-080-084-189-197-198		
13	1	土器	片断	3.8 2.2 1.8	山内 盛茂	ワコナテ 磨製陶器片断	1622 16011		
14	1	土器	片断	3.8 4.8 1.8	山内 盛茂	ワコナテ 磨製陶器片断	1626 16156		
15	1	土器	片断	8.7 3.3 2.1	山内 盛茂	ワコナテ 磨製陶器片断	1612 16010-031-036-036		
16	1	土器	片断	5.0 3.0 2.1	山内 盛茂	ワコナテ 磨製陶器片断	1604 19160-170		カマド内出土
17	1	土器	片断	10.1 5.3 2.1	山内 盛茂	ワコナテ 磨製陶器片断	1623 16153		
18	1	土器	片断	10.3 5.0 2.5	山内 盛茂	ワコナテ 磨製陶器片断	1602 16106		カマド内出土
19	1	土器	片断	10.0 5.0 2.3	山内 盛茂	ワコナテ 磨製陶器片断	1627 16209		
20	1	土器	片断	3.2	山内	ワコナテ	1608 16183		
21	1	土器	片断	10.8 4.8 1.7	山内 盛茂	ワコナテ 磨製陶器片断	1614 16173		カマド内出土
22	1	土器	片断	10.4 5.2 1.4	山内 盛茂	ワコナテ 磨製陶器片断	1616 16068		
23	1	土器	片断	10.5 4.9 2.0	山内 盛茂	ワコナテ 磨製陶器片断	1628 16170		
24	1	土器	片断	10.6 4.4 2.1	山内 盛茂	ワコナテ 磨製陶器片断	1618 16104		
25	1	土器	片断	10.0 4.0 2.0	山内 盛茂	ワコナテ 磨製陶器片断	1601 16174		カマド内出土
26	1	土器	片断	10.0	山内	ワコナテ	1603 16187		
27	1	土器	片断	10.1 6.1 1.3	山内 盛茂	ワコナテ 磨製陶器片断	1615 16130		
28	1	土器	片断	11.1 5.7 1.7	山内 盛茂	ワコナテ 磨製陶器片断	1612 16172-179		カマド内出土
29	1	土器	片断	11.5	山内	ワコナテ	1607 16163		カマド内出土
30	1	土器	片断	10.8 4.9 2.4	山内 盛茂	ワコナテ 磨製陶器片断	1600 16178		カマド内出土
31	1	土器	片断	11.1	山内	ワコナテ	1623 16200		
32	1	土器	片断	11.6 1	山内	ワコナテ	1621 16164		カマド内出土
33	1	土器	片断	8.0 4.8 2.8	山内 盛茂	ワコナテ 磨製陶器片断	1614 16203		
34	1	土器	片断	8.2 5.7 1.6	山内 盛茂	ワコナテ 磨製陶器片断	1626 16064-124		
35	1	土器	片断	11.1	山内	ワコナテ	1627 16214		
36	1	土器	片断	12.0 5.5 3.2	山内 盛茂	ワコナテ 磨製陶器片断	1621 16068		カマド内出土
37	1	土器	片断	12.1	山内	ワコナテ	1623 16167-171		カマド内出土
38	1	土器	片断	12.6	山内	ワコナテ	1608 16111		
39	1	土器	片断	14.2 6.1 3.9	山内 盛茂	ワコナテ 磨製陶器片断	1612 16016-197-170-171		カマド内出土
40	1	土器	片断	14.3	山内	ワコナテ	1608 16087		
41	1	土器	片断	14.9	山内	ワコナテ	1607 16085		
42	1	土器	片断	6.6	山内	ワコナテ 磨製陶器片断	1620 16216		
43	1	土器	片断	13.1	山内	ワコナテ	1616 16166		
44	1	土器	片断	14.2	山内	ワコナテ	1622 16261-076		
45	1	土器	片断	14.5	山内	ワコナテ	1620 16175		カマド内出土
46	1	土器	片断	15.7 6.3 3.7	山内 盛茂	ワコナテ 磨製陶器片断	1608 16164		カマド内出土
47	1	土器	片断	15.6 3.7 1.2	山内 盛茂	ワコナテ 磨製陶器片断	1620 16168-192		カマド内出土
48	1	土器	片断	16.4	山内	ワコナテ	1604 16164		カマド内出土
49	1	土器	片断	17.0 7.5 3.8 1.4	山内 盛茂	ワコナテ 磨製陶器片断	161 16189		カマド内出土
50	1	土器	片断	18.7 3.7 3.8	山内 盛茂	ワコナテ 磨製陶器片断	1609 16170-182-194		カマド内出土
51	1	土器	片断	18.5	山内	ワコナテ	1603 16175		カマド内出土
52	1	土器	片断	16.9 8.4 4.3	山内 盛茂	ワコナテ 磨製陶器片断	1606 16155		カマド内出土
53	1	土器	片断	16.8	山内	ワコナテ	1605 16184		カマド内出土
54	1	土器	片断	18.0	山内	ワコナテ	1623 16116		カマド内出土
55	1	土器	片断	17.7 6.0 2.9 1.7	山内 盛茂	ワコナテ 磨製陶器片断	1629 16072-180-187		
56	1	土器	片断	9.8 4.9 2.4 1.1	山内 盛茂	ワコナテ 磨製陶器片断	1621 16040-180		
57	1	土器	片断	18.7	山内	ワコナテ	1644 16160-167-176-177-181		カマド内出土
58	1	土器	片断	22.1	山内	ワコナテ	1629 16164		
59	1	土器	片断	9.0	山内	ワコナテ 磨製陶器片断	1603 16183		カマド内出土
60	1	土器	片断	15.0 6.3 3.8	山内 盛茂	ワコナテ 磨製陶器片断	1636 16067-068-070-102		
61	1	土器	片断	16.2	山内	ワコナテ	1627 16265		
62	1	土器	片断	6.3	山内	ワコナテ 磨製陶器片断	1624 16180		カマド内出土
63	1	土器	片断	7.5	山内	ワコナテ 磨製陶器片断	1625 16126		
64	1	土器	片断	6.8	山内	ワコナテ 磨製陶器片断	1623 16140		
65	1	土器	片断	6.0	山内	ワコナテ 磨製陶器片断	1626 16195		
66	1	土器	片断	6.3	山内	ワコナテ 磨製陶器片断	1626 16216		
67	1	土器	片断	10.0 5.2 3.8	山内 盛茂	ワコナテ 磨製陶器片断	1647 16200-043		
68	1	土器	片断	6.0 5.0 2.7	山内 盛茂	ワコナテ 磨製陶器片断	1620 16216		
69	1	土器	片断	13.4	山内	ワコナテ 磨製陶器片断	1601 16161		カマド内出土
70	1	土器	片断	16.6	山内	ワコナテ 磨製陶器片断	1602 16156-166		
71	1	土器	片断	16.9 8.8 6.2	山内 盛茂	ワコナテ 磨製陶器片断	1606 16260-065-066		
72	1	土器	片断	16.2	山内	ワコナテ	1602 16162-187		カマド内出土
73	1	土器	片断	16.8	山内	ワコナテ 磨製陶器片断	1600 16170		カマド内出土
74	1	土器	片断	8.0	山内	ワコナテ 磨製陶器片断	1626 16137		
75	1	土器	片断	6.4	山内	ワコナテ 磨製陶器片断	1627 16136		
76	1	土器	片断	8.0	山内	ワコナテ 磨製陶器片断	1623 16164		
77	1	土器	片断	16.1 6.7 6.7	山内 盛茂	ワコナテ 磨製陶器片断	1608 16202		
78	1	土器	片断	10.8 11.8	山内 盛茂	ワコナテ 磨製陶器片断	1622 16136-186		カマド内出土
79	1	土器	片断	8.0	山内	ワコナテ 磨製陶器片断	1609 16162		カマド内出土
80	1	土器	片断	8.9	山内	ワコナテ 磨製陶器片断	1624 16116		
81	1	土器	片断	10.0 6.1 3.4	山内 盛茂	ワコナテ 磨製陶器片断	1609 16207-060-080-106		
82	1	土器	片断	9.7	山内	ワコナテ	1627 16112		
83	1	土器	片断	8.2 5.1 2.1	山内 盛茂	ワコナテ 磨製陶器片断	1628 16208		
84	1	土器	片断	24.6	山内	ワコナテ	1602 16071-188		
85	1	土器	片断	21.8	山内	ワコナテ	1600 16136-138-142		
86	1	土器	片断	24.6	山内	ワコナテ	1630 16083-120-146-202		
87	1	土器	片断	19.0	山内	ワコナテ	1626 16062-063-076-077-080-118-121-130-140		
88	1	土器	片断	19.3	山内	ワコナテ	1621 16103-138-001		山内盛茂カマド内出土
89	1	土器	片断	17.2 3.8	山内 盛茂	ワコナテ 磨製陶器片断	1620 16048-670-134-182		
90	1	土器	片断	7.6	山内	ワコナテ	1604 16136-151-162-194-191		
91	1	土器	片断	4.8 4.5 5.3	山内 盛茂	ワコナテ 磨製陶器片断	1624 16164		
92	1	土器	片断	1.5 1.6 1.4	山内 盛茂	ワコナテ	1643 16001		ミナモト
93	1	土器	片断	16.9	山内	ワコナテ	1621 16206		
94	1	土器	片断	10.2 1.8	山内 盛茂	ワコナテ 磨製陶器片断	11 16101-083		
95	1	土器	片断	10.8 5.5 2.6	山内 盛茂	ワコナテ 磨製陶器片断	11 1621 11-012		
96	1	土器	片断	15.2	山内	ワコナテ	11 1613 11-013		
97	1	土器	片断	14.2	山内	ワコナテ	11 1611 11-010		
98	1	土器	片断	15.1	山内	ワコナテ	11 162 11-14009		
99	1	土器	片断	15.2	山内	ワコナテ	11 161 11-015		
100	1	土器	片断	17.8 7.2 3.8	山内 盛茂	ワコナテ 磨製陶器片断	1604 16208		
101	1	土器	片断	7.6	山内	ワコナテ 磨製陶器片断	1603 16073		
102	1	土器	片断	6.2	山内	ワコナテ 磨製陶器片断	1602 16066		
103	1	土器	片断	6.5	山内	ワコナテ 磨製陶器片断	1603 16005		
104	1	土器	片断	6.1	山内	ワコナテ	1601 16001		



錆着状態



断面：破折線



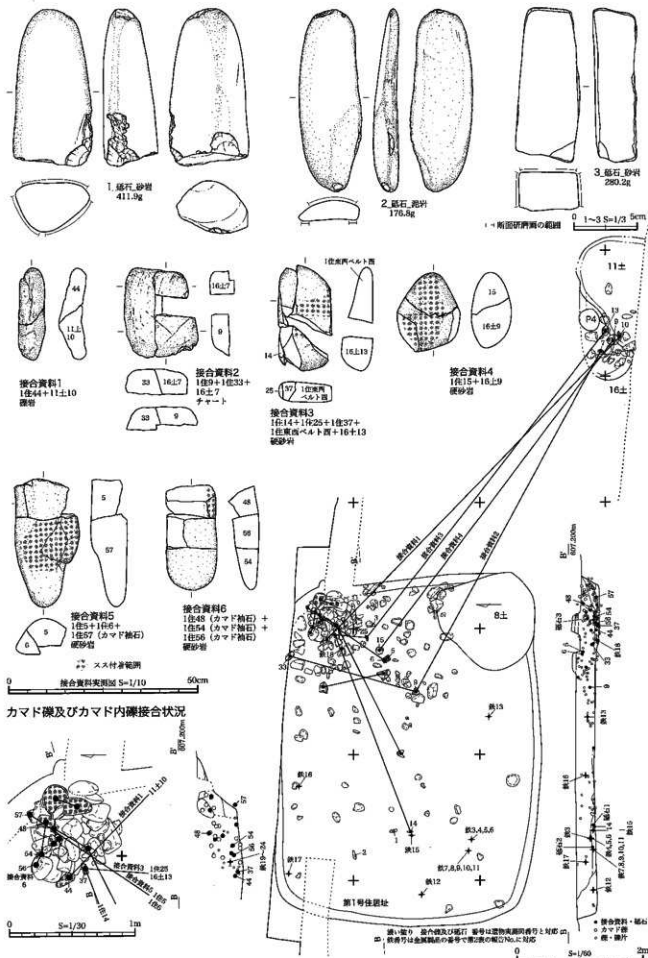
第8図 金属製品

第2表 金属製品一覧表

報告No	図No	形状・用途	図種	最大長	最大厚	重量	備考
1	6	トロンチ9	不明	(43.0)	(10.2)	6.8	釘?
2	7	トロンチ14	釘	(22.7)	(9.7)	(1.1)	山門門扉
3	1	1位	釘	(38.8)	13.2	21.0	7.8
4	2	1位	釘	(70.1)	(38.4)	(19.0)	22.3
5	3	1位	釘	(41.0)	(21.6)	(3.1)	裏又裏 鉄片を挟んで5と錆着 鉄片を挟んで4と錆着
6	4	1位	釘	(94.2)	(28.2)	(13.7)	31.6
7	5	1位	釘	(90.7)	(31.8)	12.5	25.3
8	6	1位	釘	(47.3)	(34.4)	6.3	9.3
9	7	1位	釘	(57.2)	(34.7)	5.7	9.9
10	8	1位	釘	(90.0)	(39.0)	6.3	25.3
11	9	1位	釘	(99.5)	(12.7)	13.5	10.1
12	10	1位	不明	(25.5)	(10.2)	7.0	2.4
13	11	1位	釘	(35.3)	(6.8)	8.6	8.2

報告No	図No	形状・用途	図種	最大長	最大厚	最大重	重量	備考
14	12	1位	不明	80.7	19.2	9.2	23.1	
15	15	1位	鉄片	(44.3)	(19.7)	8.9		
16	16	1位	鉄片	29.7	27.5	11.3	8.9	木製部分付
17	17	1位	不明	(33.5)	(30.0)	(5.5)	5.4	板状
18	13	1位	釘	65.2	(33.1)	(23.8)	22.2	長横門扉6個の補助
19	19	1位	カマド 鉄片	31.0	25.5	24.4	19.0	暗灰色 多孔
20	20	1位	カマド 鉄片	33.9	21.3	17.8	14.6	暗灰色 多孔
21	21	1位	カマド 鉄片	27.1	20.4	12.2	7.2	暗灰色 多孔
22	22	1位	カマド 鉄片	24.2	12.4	8.3	2.6	暗灰色 多孔
23	23	1位	カマド 鉄片	17.8	12.0	8.2	1.5	暗灰色 多孔
24	24	1位	カマド 鉄片	16.1	12.3	7.4	1.3	暗灰色 多孔

最大長・最大厚・最大重の単位はmm、重量はg 1:20A焼色、3~34D焼色



第9図 石器実測図及び石器・礫・金属製品出土状況図



A地区全景 (西から)



B地区全景 (西から)



1住 (西から)



1住カマド遺物出土状況 (西から)



11・16土礫出土状況 (北から)



1住土器・陶器



1住金属製品 (1)



1住金属製品 (2)

抄録

ふりがな	なかのけんまつもとし ひらたほんごういせき だい6じはつかつちようさほうこくしょ							
書名	長野県松本市 平田本郷遺跡 第6次発掘調査報告書							
副書名								
巻次								
シリーズ名	松本市文化財調査報告							
シリーズ番号	No.195							
編著者名	直井雅尚 三村竜 内田陽一郎							
編集機関	松本市教育委員会							
所在地	〒390-0874 長野県松本市大手3-8-13 TEL0263-34-3000 (代) (記録・資料保管：松本市立考古博物館 〒390-0823 松本市中山3738-1 TEL0263-86-4710)							
発行年月日	2008 (平成20) 年 3月31日 (平成19年度)							
ふりがな 所取遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ひらたほんごう 平田本郷	なかのけんまつもとし 長野県松本市 ひらたにし 平田西2丁目222番1、 223番1、256番1、 258番	20202	293	36度 11分 33秒	137度 57分 39秒	2006.10.04 ～ 2006.12.05	358m ²	松本市による 平田駅西口線 道路築造
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
平田本郷	集落跡	平安時代	竪穴住居址 1 土坑 10 ピット 29 焼土範囲 2	土器・陶磁器 (土師器、須志器、灰釉陶器) 金属製品 石器			多量の上器片を伴う石 組みカマド 錆着した金属製品	
要約	平田本郷遺跡は奈良井川と田川に挟まれた複合扇状地の扇中部に立地する遺跡である。今回の発掘調査はA・Bの2地区に分けて調査を行った。A地区では溝状地形が検出され、明確な遺構は確認できなかった。B地区では竪穴住居址1軒、土坑10基、ピット29基、焼土範囲2ヶ所が検出された。本報告書ではB地区で検出された遺構・遺物の報告に主体を置いた。平安時代の竪穴住居址からは石組みカマドが検出され、カマド内から多量の土器片が出土した。カマドの機能停止後の一様相がうかがえる。住居址覆土中及びカマド内出土土器92点を図示した。また、覆土中から異なる器種の金属製品がまとまり錆着した状態で出土した。							

松本市文化財調査報告No.195

長野県松本市

平田本郷遺跡

— 第6次発掘調査報告書 —

発行日 平成20年3月31日

発行者 松本市教育委員会

〒390-0874 長野県松本市大手3丁目8番13号

印刷 株式会社二光印刷